

日本の底力を発揮し コロナ禍の世界を先導せよ

令和3年が明けました。新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年間が過ぎ、年始早々緊急事態宣言が発出されましたが、果たして日本はこの世界的なパンデミックを打破することにどれほど貢献できているのでしょうか。

戦後、灰塵と化した首都・国土を再興させて世界に冠たる経済大国に押し上げ、阪神淡路大震災、東日本大震災といった震災被害や雲仙普賢岳の火砕流被害、九州・広島・北海道・千葉を襲った台風被害などからも幾度となく復興してきた日本です。その礎となっているのは、日本の市民、県民、国民のたゆまぬ努力と底力にほかなりません。

神は越えられない試練は与えないと申します。試練を克服してこそ、この国に、この星に生まれてよかったと思えるのです。

今こそ、この日本の底力を発揮し、世界に、地球に貢献しなければならないのではないのでしょうか。

戦後、幾多の世界を先導する企業を輩出した日本ですが、ここ半世紀、そうした企業が出てきておりません。松下幸之助、盛田昭夫、本田宗一郎など、逞しいベンチャー精神を持った偉人たちがおりましたが、今こそこうした人材が登場することを願って止みません。

ノーベル賞でも、化学賞、物理学賞などで日本の頭脳と研究は高く評価されています。まだまだ、日本が世界に貢献できる研究成果や発明があるはずです。米国でもバイデン氏の大統領就任が確実となり、ようやく混乱が沈静化する傾向が見えますが、少なくとも現状の米国における民主主義には学ぶべきところが見当たらないのが現状です。

日本は、アジアの、世界の一員として、その英知と実力をいかんなく発揮し、世界から注目され感謝される国にならなければならないのです。そのためには日本は驚異的な発展と発明を生み出し、世界に飛躍する企業を多数登場させなければならないのです。

日本のベンチャー企業のみならず、大手企業も内部留保を貯めることに満足することなく、イノベーションに、開発費に投資をしていかななければならないのです。

2030年に、2050年に、日本が世界をリードする偉大な企業を生み出した国になっていることを期待します。

本誌主幹 大中 吉一